

平成26年度 第5回 桑名市子ども・子育て会議 議事録

日 時	平成26年11月11日(火) 13時～14時30分
場 所	桑名市役所 5階中会議室
出席委員	大橋了子、奥田聖人、加藤隆明、下間賢了、高橋恵美子、津田浩二、 野口典子 (◎)、松岡亜由美、松岡典子 (○)、松岡初文、水谷秀史、水谷美保、 横山悦子、渡部美紀子 (敬称略、五十音順) (◎：委員長、○：副委員長)
傍聴人数	なし
会議次第	<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 議事<ol style="list-style-type: none">(1) 桑名市子ども・子育て支援事業計画案について (資料1)(2) 計画の周知について3. その他4. 閉会

1. 開会

(野口委員長)

こんにちは。本日は計画案を承認していく作業になるので、よろしくご審議いただきたい。議事に入る前に、前回からの宿題について、事務局から机上配布資料①「教育標準時間認定を受けた子どもの利用者負担の国基準額のイメージ(月額)」の説明をお願いしたい。

(事務局)

※ 資料に基づき事務局説明(資料:机上配布①)

(野口委員長)

只今の事務局の説明について、ご質問等はないか。

(水谷秀史委員)

階層区分の⑤には25,700円が上限額としてあるが、この場合私立と公立はあくまで同じであると私たちは考えている。また、桑名市は、子ども・子育て会議では保育料について議論しないとのことだが、他市では議論して保育料を決めている。委員の皆さんには、保育料について議論して決定している自治体もあることをご承知おきいただきたい。

少し話は飛ぶが、私たちは、この金額を出すための計算ソフトを配布してもらっている。私立幼稚園が、認定こども園や施設型給付幼稚園に移行するかしないかの判断材料にしなさいとされている。何故これを言うかという、内閣府は失敗をした。本来私たちがここに集まっているのは、幼稚園と保育園を一緒にしようという目的だったはずだが、いつの間にかその大義名分はどこかに行ってしまい、そのほかの議題が多く語られるようになってしまった。私立幼稚園の22%しか認定こども園または施設型給付の幼稚園に移行しないという現状を受けて、内閣府はただ見ているだけしかできない。当初に掲げられた保育園と幼稚園の一体化については失敗したと言える。厚生労働省と文部科学省の二元化はよくない、内閣府で一元化しましょうという目論見だったが、結果的には三元化となった。これは国民にとって大きなマイナスだと思っている。

計算ソフトで算出された公定価格についてご紹介したい。私の幼稚園が来年、施設型給付の認定を受けるものと仮定して、昨年度の子どもの数で計算したところ、年間の運営費は約1億円と算出された。私の幼稚園の昨年度の決算書をみると、消費収支は約1億7千万円となっている。比較するとマイナス7千万円となるが、これで幼稚園を運営していけると内閣府は言っている。委員の皆さんにも、内閣府が何をしようとしているのかをご認識いただきたいと思う。また、仮に私の幼稚園が認定こども園に移行した場合には、これが約1億3千万

円になるが、それでも1億7千万円には程遠い。このような試算が出るのであれば、国が、認定こども園に移りなさい、施設型給付を受けなさいと声高に叫んでも、22%しか呼応しなかったというのは、今後も大きな問題だと思う。

(野口委員長)

その他のご意見はないか。それでは今日の議題に移りたい。

2. 議事

(1) 桑名市子ども・子育て支援事業計画案について（資料1）

※ 資料に基づき事務局説明

(松岡初文委員)

予防接種について意見を提出したが、担当課長からは予算がないとの回答だった。近隣他市町と比べると、桑名市は任意予防接種に対する補助が非常に乏しい。桑名市は国が決める最低限のことをやっているだけに過ぎない。他市町に比べて非常に立ち遅れている。予算がないのは仕方ないが、今後の課題として、他の市町並み、あるいはそれ以上を目指していただきたい。現状では、とても子育てにやさしいまちとは言えない。計画案に「今後の課題として～」と明記していただきたい。

(津田委員)

幼稚園に通っている保護者の所得層をみると、相対的にみれば私立幼稚園に通っている子どもの保護者の方が所得が高い傾向にあると思う。つまり、親の所得によって子どもが選択できる保育・教育が制限されているのが現状だと考えられる。子ども・子育て支援新制度の大きなテーマには共通の給付があるが、公立・私立に関係なく、保護者が良いと思う教育を選択できる制度に変えていただきたい。先の説明では、公立幼稚園あるいは私立幼稚園という言い方をしたが、保育料は1号・2号・3号認定という形で設定される。2号・3号認定についても市が決定することになると思うが、現状を踏まえると、公立・私立に関係なく同一の保育料が設定される見通しとなっている。つまり、今議題になっているのは、何故1号認定だけ公立・私立の格差をつけるのかということ。先程水谷秀史委員がおっしゃったとおり、1号認定も公立・私立同額の保育料を設定していただきたい。そして、当然のことながら所得の低い人については、相応の配慮をしていただきたいということをご理解いただきたい。

(野口委員長)

事務局からご意見等はないか。

(事務局)

保育料については今後決めさせていただくことになると思う。

(事務局)

予防接種についてご意見を頂戴したが、現在、市の財政状況は非常に厳しいため、このような回答をさせていただいた。今後の課題として検討していきたいと思う。

(松岡初文委員)

「努力する」という文言を盛り込むことはできないか。

(事務局)

松岡委員のおっしゃることは非常に重要だと認識している。厚生労働省では定期接種化していく旨の文章も通達されてきている。優先的に対処していきたいと考えているが、財政状況をみると非常に厳しいものがあるのでご理解いただきたいと思う。

(野口委員長)

松岡委員のご意見は、文章に何らかの前向きな文言を盛り込めないのかという主旨だが。

(松岡初文委員)

はい。69頁の目標の欄に「任意接種については、今後市の財政状況を踏まえ、また国の動向をみて検討します」という主旨の目標をいただければありがたい。他の市町並みに全部やることは無理だと思うので、せめてインフルエンザ1つでも実現していただきたい。現状では、国の最低限以外何もやっていない。

(事務局)

これは計画書なので、いずれ目標値に対する評価をしなければならない。現状で実現が見込めないものについては、ここに盛り込むべきではないと考えている。

(野口委員長)

実現できる、できないではなく、計画書に記載しておかないと、評価そのものにも上がってこない。財政状況について詳しく記載するわけではないので、少なくとも努力目標として改善していくという主旨の文言は入れられないのか。

(松岡初文委員)

目標がないと実現しようがない。目標を立てたけど、結果的にダメでしたでも構わない。目標がないと努力すらしめない。

(事務局)

目標を立てて、結果的にダメでしたとなるものを、簡単に計画に記載して良いのか疑問に思う。

(野口委員長)

この会議として、この部分に文言を明記してほしいという意見があるので、市としては書く必要がある。

(事務局)

わかりました。先程の松岡委員のご意見を参考に文言を追記したい。

(野口委員長)

どのように追記したかはお知らせいただきたい。

(事務局)

参考資料1の対応方針の文言をそのまま入れてもよろしいか。

(松岡初文委員)

参考資料1の文面では前後が繋がらないので、「任意接種の補助については、市の財政状況を踏まえて前向きに検討します」などの目標を入れてほしい。文言の詳細については事務局に任せたい。

(事務局)

松岡委員のご意見を参考にこちらで文面を作成したい。

(野口委員長)

津田委員のご意見についてはどうか。この部分はかなり踏み込んで書いたつもりだが。

(津田委員)

皆さんにまずご理解いただければ良い。

(野口委員長)

それでは、引き続き計画案の説明をお願いしたい。

(事務局)

※ 資料に基づき説明

(野口委員長)

ご意見等があればお願いしたい。

(水谷秀史委員)

110頁の11「幼稚園教諭・保育士の合同研修」について、これは0～2歳も黒塗りになると思う。111頁の20「特別支援教育の推進」は3～5歳も黒塗りになると思う。

(事務局)

委員のご指摘のとおり修正したい。

(野口委員長)

他にないか。

(奥田委員)

参考資料2について、桑名市は放課後子ども教室の設置数が少ないが、放課後児童クラブと一体的に連携していけるのか疑問がある。今後、放課後児童クラブと放課後子ども教室をリンクさせながらやっていくのであれば計画書に記載するべきだと思う。参考資料2には、市町村の計画に「31年度に達成されるべき一体型の目標事業量」と「小学校の余裕教室の活用に関する具体的な方策」などを記載することとされているが、本来であればこの会議で具体的に議論すべきだったと思う。また、放課後児童クラブの新規開設分の約80%を小学校内で実施とあるので、ぜひこれはやっていただきたいと思う。今回の計画策定の過程では、放課後子ども教室についてほとんど議論されてこなかった。

(野口委員長)

はい。議論してこなかった部分が結構ある。

(奥田委員)

今回国からこういうものが出たので、何か具体的に盛り込んでいかないと、後々付いていけないと思う。

(野口委員長)

128頁の※のなお書きをもう少し丁寧に検討してほしいということか。

(奥田委員)

はい。ただ、時間的に余裕がない。

(野口委員長)

これはパブリックコメントに掛ける案なので、今後どの程度修正できるかによる。放課後子ども教室については、この会議では十分に議論してこなかったがどうか。

(事務局)

どの程度盛り込めるか検討させていただきたい。

(野口委員長)

検討の過程と結果まで文章でお示しいただけるか。

(事務局)

はい。少しお時間をいただきたい。

(野口委員長)

最終決着は1月なので、それまでに文章でやり取りしながら検討したい。

(事務局)

パブリックコメントまでには時間的に余裕がないと思うので。

(野口委員長)

具体的に現場を知っている人でないと、どのように盛り込んでいいのか難しいと思うので、奥田委員には文章案の作成にご協力いただきたい。

(津田委員)

74頁の事業番号12「小・中学校における確かな学力の育成」の現状に、参考指標として『「算数・数学の授業が「わかる」と回答した児童生徒の割合」：76.3%』とあるが、これは桑名市の数値か、全国の数値か。

(事務局)

桑名市の数値。

(津田委員)

全国学力調査結果を桑名市は公表しているのか。

(事務局)

平均正答率は公表していないが、学習状況や生活状況については公表している。

(津田委員)

ぜひ平均正答率を公表していただいた方が、より客観的に評価できると思う。

(野口委員長)

この部分には、注書きで桑名市と記載してあった方が良い。

(事務局)

わかりました。

(野口委員長)

145頁以降には各分科会の提案が掲載されているので、これを踏襲した形で計画ができあがっている。お気づきの点等があればまたご意見を頂戴したいと思う。

計画の名称は「桑名市子ども・子育て支援事業計画」が有力だが、これでよろしいか。

特にご意見等がないようなので、これに決めさせていただく。

この計画を全員参加型で推進していくことになるが、続いて計画の周知についてご検討いただきたい。

(2) 計画の周知について

※ 資料に基づき事務局説明（資料：机上配布②）

(野口委員長)

計画書の縮刷版を出しても仕方がないので、市民に絶対伝えたいことに絞ってリーフレットを作成することになると思う。また、ホームページ等々も活用していくことになると思うが、その方法についてご意見を頂戴したい。

(水谷秀史委員)

リーフレットには、何が一番変化したのか、目玉は何かを入れるのが大事だが、この会議を通じてそれが何であったのかを探るのが難しい。「公私間格差、是正されるみたい」と看板に書いておくとか。目玉を事務局がどのように考えているのか知りたい。また、大きく変化した部分を前面に出していく必要があると思う。

(野口委員長)

水谷委員のおっしゃるとおり、計画の核心部分がなかなか議論できなかったという反省がある。次世代育成から継続して桑名市がやろうとしていることを知っていただくことが大事だし、地域や子育て終了世代も一緒になって子育てしていくことも含めて情報提供していかなければならない。リーフレットは全戸配布を予定しているので、掲載する内容を絞る必要がある。

(事務局)

机上配布②にご意見を頂戴したい。案は次回の会議にご提示したい。

(奥田委員)

全戸配布というのは、子どもがいる全世帯か、市民の全世帯か。

(事務局)

市民の全世帯。

(奥田委員)

それが本当に必要なかどうかの意見も机上配布②に書けば良いのか。

(事務局)

それも含めて、どのようなご意見でも結構なのでお願いしたい。

(野口委員長)

ちなみに、全世帯は何世帯くらいになるのか。

(事務局)

約55,000世帯。

(松岡副委員長)

ポスターの作成予定はないか。リーフレットに比べて見る機会は断然多い。

(事務局)

ポスターの案は頭になかったが、予算をみながら検討したい。

(野口委員長)

作りようだと思う。お金をかけなくてもポスターはできると思う。委員の皆さんには、周知の方法も含めてご意見を頂戴したい。

3. その他

(下間委員)

計画の進捗を定期的にみていく考えはあるか。

(事務局)

この会議自体は計画策定後も存続し、計画の進捗管理等を行う予定。委員は改めて委嘱する。

(野口委員長)

131頁に計画の進行管理について記載してあるので、このようにご理解いただきたい。

(渡部委員)

子育てガイドブックの予算が削られている現状を知っていただきたい。

(津田委員)

この計画の中で逆に予算が生まれるのが1号認定の保育料。なかなか予算がなくてできなかったことが実現しやすくなることをご理解いただきたい。

(松岡副委員長)

96頁の「民生委員・児童委員等による訪問」は予算なしだと思うので、これを新規で入れられたのは良いと思う。「民生委員・児童委員等による訪問」では訪問することが目的になってしまうので、事業名称を変更した方が良い。「民生委員・児童委員等による家庭支援」の方が良い。

(事務局)

ご意見を参考に検討したい。

(野口委員長)

お気付きになった点等は今後も事務局までお願いしたい。次回の会議は年明けになる。

(事務局)

本日頂戴したご意見を基に案を整理、修正したい。ありがとうございました。

(以上)